

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 26 年後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
研究発表報告書

申請者氏名	田代 泰之	会員番号	0033490
申請者の 所属・職名	東京理科大学 生命医科学研究所 博士課程 2 年		
出席会議名	18 th Germinal Centre Conference		
発表論文 タイトル	The Generation of High-affinity and Low-affinity IgM+ Memory B cells : Distinct Roles in Secondary IgM Antibody Response to T-dependent Antigen		

実施結果: Sweden という、ヨーロッパの中でも“北欧”という特別な分化が根付く国で、雄大な自然を身近に感じながら、18th Germinal Centre Conference は行われました。ノーベル賞受賞式が行われるのも、ここ Sweden であり、今回この国に訪れることが出来たのは非常に感慨深いものでした。

学会は、200～300名が入れる程の小さな、しかし立派なセミナー室があるホテル内で開かれました。常時フリードリンク、フリーフードであり、また宿泊は同ホテル内であるため、学会だけに専心することが出来る、コンパクトであり、快適かつ効率的なものでした。

学会に参加しておられるプレゼンターの方々は、学会名から分かるように B 細胞の研究者が大多数を占めており、B 細胞研究者の中でも、第一線で活躍しておられる選りすぐりの大先生ばかりでした。その大先生に加えて、若手の PI、ポスドクがこぞって参加しており、私のような博士課程の学生はほとんどおらず、そのため研究発表のレベルは非常に高いものでした。失礼ながら、日本にいては肌で感じる事が出来ないような、身が奮い立つような発表も聞くことができ、世界の研究レベルを改めて認識させられました。

私のような学生のポスター発表にも、論文で名前だけを目にしており、憧れを抱いていた大先生が直接聞きに来てくれ、ディスカッションする機会を得たり、また、そのような大先生の所へ質問に行くと気さくに答えてくれたりと、勉強になったのは勿論のこと、感動の毎日でした。さらに、コーヒーブレイクや食事を介して、色々な人と知り合うことが出来たのも、コンパクトな学会の醍醐味であると感じました。今回の学会で得た知識・出会いは、自分の研究を今後発展させていく上で、非常に良い糧となるものと信じています。

最後になりますが、海外の学会への参加を支援するという素晴らしい制度を設けて下さった岸本忠三先生の御心に深く感謝を申し上げますと共に、選考に携わって頂いた選考委員の先生方、応募する上で多大なご援助を頂いた事務局の方々に心より御礼申し上げます。また、推薦人になって頂いた東京理科大学 生命医科学研究所 北村大介教授、私の指導教官である東隆親教授に、この書面を借りて深く感謝の意を表したいと思います。